

氏名	小林 靖 明
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3223号
学位授与の日付	平成10年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Presence of Human Papilloma Virus DNA in Pelvic Lymph Nodes Can Predict Unexpected Recurrence of Cervical Cancer in Patients with Histologically Negative Lymph Nodes (組織学的リンパ節転移陰性子宮頸癌症例の骨盤リンパ節でのHPV DNA の検出)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 清水 憲二 教授 山田 雅夫

学位論文内容の要旨

骨盤リンパ節転移の有無は、子宮頸癌術後の最も重要な予後因子であり、組織学的転移陰性の場合にはその予後は良好である。しかし、予想外の再発から不幸な転帰に至る症例も存在し、その予知は不可能であった。1988年から94年までに広汎性子宮全摘術を受けた子宮頸癌 236例のなかで、原発巣でHPV16 または18型が検出された症例のうち、のちに再発をみた組織学的リンパ節転移陰性症例は10例であった。これら10症例の骨盤リンパ節を材料として、HPV E₆-E₇領域のnested PCR-サザン法を行ったところ、10例中 9例において骨盤リンパ節より原発巣と一致するHPV DNA を検出した。組織学的に転移が否定されたリンパ節にHPV DNA が存在することは、通常の光顕組織診断不可能な微小リンパ節転移あるいは血行性播種の可能性があったことを示唆しており、このような症例を予知するのに nested PCR-サザン法が有用であると思われた。

論文審査結果の要旨

本研究は原発巣でHPV16または18型が検出された子宮頸癌IIb期の症例で、組織学的にリンパ節転移が陰性であったが後に再発をみた10例について、骨盤リンパ節を材料としてnested PCR-サザン法でHPV, E6-E7領域が増幅されるか否かを検索したものである。10例中9例で原発巣と一致するHPV DNAが検出されており、リンパ節転移を検出するのにnested PCR-サザン法が有用であることを示した価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。